



## 進んで社会を見つめ、自ら働きかける社会科学習 ～社会科+総合的な学習の時間 =大館ふるさとキャリア教育～

大館市立東館小学校 教諭 山本 起嗣

### 1 はじめに

大館市では近年、キャリア教育に全市をあげて取り組んでいる。子どもが自ら主体的に関わっていく活動が理想的であるが、総合的な学習の時間にそのような高い意識をもたせるには、単元との出あいが必要であると考え。本校では、5年生が毎年「米作り」の活動をしているが、目的意識が薄いまま活動している場合もあったと思われる。過年度の5年生は秋田市で米の販売活動を行ったり、東日本大震災の被災小学校へ送ったりという活動をしているが、外への意識がある分、子どもたちの活動意欲は低くなかったと思われる。これらの現状を踏まえた際、社会科で日本の農業の現状をしっかりと把握し、問題意識をもたせることができれば、自ら主体的に関わっていける総合的な学習の時間が成立すると考え、本主題を設定した。

### 2 研究の内容

#### (1) 研究の仮説

- ① 自分たちの身近な地域の素材を教材として扱うことにより、知りたい、調べたいという意欲が高まるのではないか。
- ② 総合的な学習と関連させて学習することで、活動の幅が広がり、社会への働きかけを含め、公民的な資質の基礎を養えるのではないか。
- ③ 地域人材の活用方法を工夫することにより、生きた社会に触れられるのではないか。

#### (2) 研究の方法

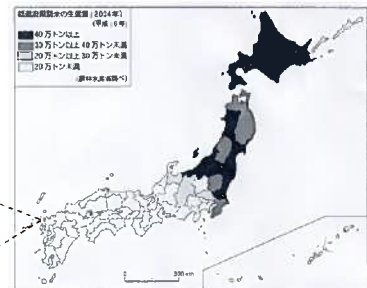
- ① 秋田県の稲作農業の教材化
- ② 総合的な学習の時間と関連させた単元計画の工夫
- ③ ゲストティーチャーの活用、シンポジウムの実施、校内外でのPR活動の実施

#### (3) 研究の実際

##### ① 秋田県の稲作農業の教材化

秋田の農業に興味をもたせたり、資料活用の能力を高めたりするための教材を開発した。また、資料を読み取ることで、新たな問いが生まれるような資料の準備に心がけた。

表題を隠して「何を表した地図か」を問うと、「降雪量」という答えが返ってくる。米の生産量だと知らせると、「なぜ、大生産地が北日本にかたよっているのか」という問いが新たに出てくる。そこで、「なぜ秋田県では米作りがさかんなのだろうか」という学習課題で学習を進めていくこととし、予想をたて、検証していくこととした。



【米の県別生産量】

